

第12期 第12回国立市ごみ問題審議会 議事録

日時 令和4年(2022年)1月18日(火) 午後2時00分～午後3時00分
場所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、十松委員、速水委員、山岸委員
(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、豊島清掃係長、河内清掃係主査、岡田清掃係主事、
新清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2020(令和2)年度実績)の評価についての答申書(案)について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2020(令和2)年度実績)の評価についての答申書(案)について事務局から説明した。

【山谷会長】皆さまからご意見を伺いたいと思います。

【十松委員】全体的にすっきりとまとめていただいたと思います。

【楠田委員】8ページの「③厨芥類の水切りの促進」についてですが、環境省の支援を受けて行った食品ロスの実態調査では、可燃ごみのうちの33.9%が食品廃棄物で、そのうち30.1%が食品ロスという結果が出たとのことですが、国立市のホームページでは、食品ロスの量は年間2,100トンで、市民1人1日あたりなす1個分と記載されています。せっかく分かりやすい分析結果が出たので、うまく活用し、食品ロスの量の表現や定義を一致させたほうがよいと思います。

【事務局】食品ロスの調査はサンプル調査で数字に幅があるため、ホームページでは国が出している数字や東京都が出している数字の中で間をとった数字を使っていますが、せっかく国立市だけの調査をしたので、この結果を活かして、数字も整理して、アピールしていきたいと思います。

【十松委員】15ページの「④生ごみ処理機器の普及促進」の「審議会の評価等」の「2021(令和4)年」は「2022(令和4)年」でしょうか。

【事務局】はい。全体的に見直します。

【隈井委員】6ページの「①ごみ減量協力店の利用促進」の「審議会の評価等」の「国立市エコショップ」は「国立市エコショップ制度」としたほうがよいでしょうか。

【事務局】修正します。

【山谷会長】2ページは「2020年度の国立市の1人1日当たりのごみ量のうち、収集量は26市の中で少ない方から13位、持込量は18位であり、ごみ量は12位、資源物量は多い方から11位であった」としたほうがよいと思います。また、「国立市の総資源化率は37.7%で、多摩地域の平均(37.9%)をやや下回り、26市の中で13位であった」としたほうがよいと思います。

なお、埋め立てによる最終処分については、多摩地域の25市1町は二ツ塚に持っていき、可燃ごみは全量をエコセメント化して埋め立てをせず、不燃ごみも徹底的に資源化をして2018年から埋

め立てをしていませんが、あきる野市は周辺の町村と一緒に自分のところで中間処理と埋め立てをしています。

8ページの「③厨芥類の水切りの促進」の「審議会の評価等」についてですが、やはり水切りについての評価なので、水切りを冒頭に置き、例えば、「水切りの推進に加え、食品ロスの視点からも厨芥類を減らす必要がある。食品ロス、食材の買いすぎに起因することも考えられる。」としたほうがよいかと思えます。

【山崎委員】29ページの「④適正な中間処理と安定的な管理運営」の「2020（令和2）年度実績」の数値の単位の「kwh」が「kw」となっています。また、単位の前に半角スペースが入っているところと入っていないところがあります。

31ページの「③中間処理施設の延命化」と34ページの「①焼却残灰排出量の削減」の「2020（令和2）年度実績」の数値が「未定」となっていますが、まだ確定していないのでしょうか。

【事務局】確定しています。全体的に見直します。

【隈井委員】15ページの「①くにたちカードの利用促進」の「審議会の評価等」についてですが、意味がわかりづらいです。くにたちカードの利用効果は一定程度あったが、役割を終えたということかと思うので、「くにたちカードの利用効果は一定程度果たされたが、レジ袋の有料化という法制度の変更や、社会環境の変化に伴い、役割は終えたと考えられる。」としたほうがよいでしょうか。

【山谷会長】そうですね。「くにたちカードの利用効果」というよりは、「役割」としたほうがよいかもしれないです。

【速水委員】くにたちカードはポイントの発行が終わるだけで、全てが終わるわけではなかったかと思えます。

【事務局】新しいポイントの発行は終わるようですが、ポイントは令和6年3月まで使えるようです。書き方は整理します。

【山谷会長】「くにたちカードの役割は、レジ袋の有料化という法制度の変更や、社会環境の変化に伴い、終了することとなった。」とはっきり言って、「よって、本施策は廃止が適切である。」としまししょうか。

2. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく第2期目標の見直しについての答申書（案）について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく第2期目標の見直しについての答申書（案）について事務局から説明した。

【山谷会長】9ページの「②マイバッグ、マイ箸等の利用促進」についてですが、マイ箸運動は下火になっていて、衛生上の問題もあります。大学の学食とかでも割り箸を使わなくなっています。それよりマイボトル運動を呼びかけたほうがよいかと思うので、施策名も変えたほうがよいかと思えます。

また、13ページの「②販売店等での資源回収の促進」についてですが、「エコショップ」という言葉が3回出てくるので、「国立市エコショップについては」を「認定店については」とするか、「国立市エコショップとして認定し」を「国立市が認定し」としたほうがよいかと思えます。

【隈井委員】 12ページの「①くにたちカードの利用促進」についてですが、ここも「2021（令和4）年」となっています。

【山崎委員】 10ページの「⑥食品ロスの削減」についてですが、（仮称）国立市食品ロス削減推進計画の策定は、この審議会で策定するのでしょうか。

【事務局】 正式に諮問するのか、災害廃棄物処理計画を策定したときのようにご意見をいただくのか、具体的にどのように進めていくかまでは考えていないのですが、市が中心となって策定し、何らかのかたちでご意見をいただきたいと考えています。

【山崎委員】 国立市の小中学校の給食でも、かなりの生ごみが廃棄されていて、いくらかは堆肥になっただけだと思っています。食育ということが広く言われていて、取り組んでいる自治体も多いようなので、審議会で意見が出せるとよいかと思います。

【事務局】 学校給食の残渣はやはり問題になっていて、教育委員会では給食残渣を堆肥化し、小中学校の花壇とかで使うようなことを進めていて、もっと広げていくことも検討しています。ごみ減量課でも、公園の部署とかと連携しながら、堆肥化などを検討していければよいかと考えています。

3. その他

（1） 答申の日程について

答申は令和4年3月22日（火）の13時30分から行うこととした。

— 了 —